OSAKA
DENTAL
UNIVERSITY

大阪歯科大学広報
NEWS

No.
135
2004. Sept

ODU NEWS
大阪歯科大学広報
ODU NEWS No.135
2004年9月30日

《 目　　次 》

・新学長に今井久夫教授が就任 ････････････3
・学長就任挨拶　学 長 今井久夫 ･･････････3
・歯科放射線学講座教授就任 ･･････････････3
・教授就任挨拶　清水谷公成 ･･････････････4
・平成17年度 入学試験実施要項 ･････････5
・学位（博士）授与報告 ･･････････････････6
・平成16年度 父兄会・共済会総会 ･･･････6
・第36回 全日本歯科学生総合体育大会 ･･･6
・平成16年度 科学研究費補助金交付 ･････7
・平成16年度 学内学術研究助成金交付 ･･･9
・平成16年度 備品調査 ････････････････12
・平成16年度 地方父兄会開催 ･･････････12
<トピックス>
・シドニー大学歯学部訪問研修同行記
　口腔病理学講座助教授　西川哲成 ･･･13
・人　事 ･･････････････････････････････15
・雑　報 ･･････････････････････････････16
・あとがき ････････････････････････････16

シドニー大学
歯学部訪問研修
・Westmead 病院にて(上)
・ゾエルナー講師を囲んで(左)
・交流会パーティーにて(右)

新学長に今井久夫教授が就任

古跡養之眞学長の任期満了にともなう学長選挙の結果，新学長に病院長で歯周病学講座の今井久夫教授が選出された。今井新学長は，9月1日付けで就任する。

学長就任挨拶
“立派でなくても慕われる学長”を目指して

学　長　今井久夫

周知のように，9月1日付けをもって本学の学長を拝命し，その責務の重さに戸惑っているというのが正直な気持ちです。また，歴代の優秀な学長に比較して，全ての面で劣っていることは十分，自覚はしております。そのような小生が，今後どのような学長を目指していけば良いのかを考えてみました。

前述のように小生には，教育・研究・臨床のいずれを取り上げても秀でたものはありません。強いて自慢できることはといえば，病院長職に就いて4年間，1日の休暇もとらず，今日までやってこられた強靭な身体と精神力であるといえそうです。同時に，常日頃から，病院の教職員と気さくに話し合える環境づくりに努めた結果，数多くの教職員からの協力が得られたことが，今日まで病院長職を大過なくまっとうできたものと自負しております。今度は大学・病院の教職員の方々と，できるだけ多くの話し合いの場を設け，苦情や不満など遠慮なく意見を聞かせてもらえる学長を目指して頑張りたく考えております。換言しますと，佐川理事長が常々言われている“開かれた大学”をより確かなものにし，同時に“本学の教職員全ての方々から，慕われ，親しまれる，開かれた学長”を目指して頑張りたく考えております。

それには，常日頃からの，教職員の方々からの忌憚のないご意見をお聞かせ願わなくてはなりません。このことを衷心よりお願いしまして，学長就任の挨拶とさせて頂きます。

歯科放射線学講座教授就任

平成16年7月1日付けで，歯科放射線学講座助教授の清水谷公成先生が，教授に就任された。

清水谷教授の略歴は以下の通りである。

歯科放射線学講座教授
清水谷公成（しみずたに　きみしげ）

歯学博士

生年月日　昭和27年9月26日

＜学歴＞

昭和46年3月　大阪府立夕陽丘高等学校卒業
昭和46年4月　大阪歯科大学入学
昭和52年3月　大阪歯科大学卒業
昭和52年5月　第61回歯科医師国家試験合格
昭和60年3月　歯学博士学位取得（大阪歯科大学）

＜職歴＞

昭和52年4月　大阪歯科大学助手（歯科放射線学講座）
昭和56年5月　大阪歯科大学大学院助手（歯科放射線学）
昭和59年4月　大阪歯科大学講師（歯科放射線学講座）
昭和61年4月　大阪大学医学部非常勤講師（放射線医学教室）
平成8年5月　大阪歯科大学大学院助教授（歯科放射線学）
平成9年2月　大阪歯科大学助教授（歯科放射線学講座）
平成13年4月　大阪大学大学院非常勤講師（医学系研究科生体情報医学講座）
平成16年7月　大阪歯科大学教授（歯科放射線学講座）

教授就任挨拶

歯科放射線学講座　清水谷公成

◇　◇　◇

大阪歯科大学教授会および法人理事会のご推挙により，平成16年７月１日付けで大阪歯科大学歯科放射線学講座教授を拝命いたしました。

◇　◇　◇

初代教授の藤木芳成先生,二代目の古跡養之眞先生のお二人が築きあげてこられたこれまでの歯科放射線学の分野での業績は計り知れないものがあります。一方，私は昭和52年に本学を卒業後，放射線生物学を学ぶために放射線医学総合研究所にて研修を行ったのち，口腔領域における疾患のＸ線診断を行う傍ら，本学内の組織培養室で「in vitro level の研究」と称して癌細胞と戦ってまいりました。昭和58年には，古跡養之眞先生と田中義弘先生の命を受け，大阪大学医学部附属病院放射線科で放射線治療に従事いたしました。

そしてこの度，講座主任として教室運営を主宰するにあたり，大学当局をはじめ，教室関係者，学会関係者など多くの方々にご支援を賜りましたことに深く感謝いたします。

《教育》学生に感動を与える教育を！

最初に，教育に対する私の抱負を述べさせていただきます。本学における建学の精神には「５つのkey-words」が含まれています。すなわち，

1） 歯科医療における専門的知識と技能の重要性
2） 研究意欲の醸成
3） 使命感
4） 奉仕的人生観の体得
5） 情操豊かな人間形成

がそれであります。

また，能力的，人格的，および身体的適性の３つに要約された教育方針にのっとり，『知・徳・体』あるいは『心・技・体』の調和のとれた人材育成を行わなければなりません。しかし，そのためにはまず教員が自らその範となり，これらのすべてを備えておく必要があります。

一方，職種を問わずグローバル化が進む中，国際人としても通用する歯科医師育成も重要な我々の使命であります。現在，大学の支援により「FD研修」が充実しつつあります。学生教育を行う上で，教員の資質向上は非常に重要であり，今後も長期にわたって継続していかなければなりません。また，実際の教育においては学生に感動を与える教員でありたいと願っております。可能なかぎり学生達に感動を与え，納得できるように努めなければ，知識を得ようとしたり，行動に移すような “action” はなかなか起こしてくれないからです。その意味で，チュートリアル教育はチューターのフィロソフィーが最も伝わりやすく，感動を与えるという意味でも大いに賛成であります。患者優先あるいは患者中心であることを認識させ，すべて患者にフィードバックされることを前提にした教育指導かつ研究指導を行っていきたいと考えています。さらに医療行為とはいえ，実際には傷害行為であることを学生に認識させると同時に，特にリスクマネージメント（危機管理）に関しては，徹底した教育と指導を行っていきたいと考えております。

《研究》口腔癌放射線治療のガイドライン作成

次に，研究に対する抱負を述べたいと思います。研究活動では，全国歯科系大学の放射線治療医と緊密な連携をとり，口腔癌の標準的放射線治療ガイドラインの作成を目標に，また同時に診断学・防護学に関する情報交換・情報収集も行いたいと考えています。話は前後しますが，放射線医学は近年に至り，急速な進歩を遂げております。すなわち，放射線医学なるものは，治療・診断・生物・防護の幅広い知識が要求される分野であり，どれをとっても欠かすことができません。

そこで，まず治療分野における具体的な研究課題としては，1）口腔癌患者の口腔環境における疫学的研究，2）頭頸部癌放射線治療患者の歯科学的見地からのQOL評価，3）高齢口腔癌患者に対する放射線治療法，などをテーマとして取り組んでいきたいと思っています。診断部門としては，1）顎顔面領域の診断における3D－CTの応用，2）顎顔面領域の診断におけるMRI，MRAの応用，3）顎関節疾患の診断と治療（診断と治療のガイドライン）などです。

生物部門としては，1）癌抑制遺伝子（p53）と放射線，2）インターロイキンと放射線，など分子生物学的研究

も推し進めていきたいと考えています。さらに防護部門としては，1）ESRを利用した被曝患者（特に放射線治療患者）の抜去歯による被曝線量推定，2)チェルノブイリや水爆実験などによる個人被曝線量推定，などが研究課題，テーマであります。

《臨床》阪大とのチーム医療を柱に

３番目として，臨床あるいは診療に対する抱負を述べさせていただきます。大阪大学医学部放射線治療グループと本学放射線科とのチーム医療が過去30年もの長きに渡って継続されてまいりました。特に，頭頸部癌放射線治療の分野においては数多くの業績も残されています。本学附属病院において口腔癌患者の放射線治療が阪大との連携によって円滑かつスピーディーになされるようになったことは，患者にとっても治療にあたる我々にとっても貴重な財産であると言えます。このようなシステム化された環境下で，癌治療の最前線に立てれば，臨床研究はもちろんのこと，学生教育を行う上でも有益だと考えます。従って，阪大病院放射線科とのチーム医療は今後も継続していかなければならない最重要点であります。

一方，中央画像検査室における診療場での抱負としては，２つあります。まず始めに，診療システムの改善です。すなわち，“Hospital Information System”や“Radiological Information System”の改善，特に“PACS”と呼ばれております画像転送システムの導入は，今後定着するであろう“Telemedicine”の一環として重要な位置を占めると思います。第２番目として，CT/MRIの撮影技術および診断精度の向上などに力を入れて，診療を行っていきたいと考えております。大学病院の役割は，①地域の中核病院であること，②教育を行う病院であること，③研究開発を行う病院であることとするならば，上記の教育・研究・診療の三本柱を十二分に発揮してこそ，その役割・責任を果たしたといえるのではないでしょうか。

おわりに

最後になりますが，私の歯科医療における基本理念をお話させていただきます。それは長年培ってまいりました癌治療における三大基本理念，すなわち患者さんに対する安全性，根治性，そして副作用の軽減であります。この三大基本理念を絶えず考えながら癌治療に携わってまいりました。これは癌治療に限らず医療全般に当てはまる理念だと今も思っています。この理念に基づいて個別化した患者さん本位の歯科医療を今後も行っていくつもりでおります。また，学生教育の際にこれらのことをぜひ伝えていきたいと考えています。

浅学菲才の未熟ものです。どうぞ，今後ともご指導ご援助のほど，何卒よろしくお願いいたします。

平成17年度 入学試験実施要項

本学の平成17年度に行われる入学試験の概要は，以下の通りである。

平成17年度推薦入試

- 出願期間　平成16年11月8日（月）〜11月19日（金）
- 募集人員　28名
- 出願資格　高校卒業見込みで，調査書の全体の評定平均値が3.8以上の者で，1校2名以内
- 試験日　平成16年11月27日（土）
- 試験科目　小論文および面接
- 合格発表　平成16年12月8日（水）
- 入学手続　平成16年12月22日（水）正午締め切り

平成17年度一般入試

- 出願期間　平成17年1月7日（金）〜1月28日（金）
- 募集人員　100名
- 試験日　平成17年2月4日（金）
- 試験科目　数学・理科・外国語・小論文
  - 数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B）
  - 理科（物理ⅠB・物理Ⅱ，化学ⅠB・化学Ⅱ，生物ⅠB・生物Ⅱのうち，1科目を試験会場で選択）
  - 外国語（英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング）
- 面接　平成17年2月5日（土）
- 合格発表　平成17年2月10日（木）
- 入学手続　平成17年2月21日（月）正午締め切り

学位（博士）授与報告

糸田昌隆　乙第1438号　（平成16年6月23日）
日常生活自立度の低い障害者の摂食･嚥下機能における咬合状態の影響

三村雅一　乙第1439号　（平成16年6月23日）
Methamphetamine胎生期投与ラットの口腔内硬組織における形態的変化

福島卓司　乙第1440号　（平成16年6月23日）
歯科診療刺激が自律神経活動に及ぼす影響　－心拍数変動の周波数分析－

安井常晴　乙第1441号　（平成16年6月23日）
3D-CTと歯列３次元データの融合モデルを用いた顎変形症手術シミュレーションシステムの開発

冨井真左信　乙第1442号　（平成16年6月23日）
咬合接触検査装置の時間パラメータの再検査信頼性に関する研究

成田光利　乙第1443号　（平成16年6月23日）
クレンチング咬頭嵌合時の下顎の位置と同様に及ぼす影響

安井宏之　乙第1444号　（平成16年6月23日）
咬合部位の前後差が顎関節部負荷に及ぼす影響
－咬筋活動を想定した乾燥頭蓋骨を用いた実験－

三井七美　乙第1445号　（平成16年6月23日）
ナソロジカル・スプリントが顎顔面形態に与える影響について

姜　勝求　乙第1446号　（平成16年6月23日）
Effect of the position of the hyoid bone relative to the oral cavity on occlusion and skeletal patterns（口腔における舌骨位の咬合および骨格への影響について）

伯田哲郎　乙第1447号　（平成16年6月23日）
根管のtaper preparationと各種根管充填法における根尖封鎖性

平成16年度 父兄会・共済会総会

楠葉学舎に移転して８回目の父兄会・共済会が下記の日程により開催された。

・日　時：平成16年６月26日(土)午後１時
・場　所：楠葉学舎講堂
・日　程：午後１時　総会
　　　　　午後２時　学年別個人懇談会
・出席者：257名

当日は，加藤信次旧父兄会幹事長，大野　榮新父兄会幹事長，佐川寛典理事長，古跡養之眞学長の挨拶に続き，新池　孜学生部長より学内報告があった。また，大野　榮氏が議長に選出され，平成15年度父兄会・共済会決算報告ならびに平成16年度父兄会・共済会予算案等について，それぞれ担当の父兄会常任幹事の方々から上程の主旨説明があり，満場一致で承認された。

総会終了後，各学年に分かれて，父兄と学年指導教授ならびに助言教員とによりご子弟の就学状況，生活指導について個人懇談会が行われた。

第36回 全日本歯科学生総合体育大会

＜大会日程＞
・冬期大会：2003年12月21日～2004年３月29日
・夏期大会：2004年７月30日～2004年８月11日
・主　　催：全日本歯科学生体育連盟
・後　　援：文部科学省・東京都教育委員会・神奈川県教育委員会・神奈川県体育協会・横浜市教育委員会・横浜市スポーツ振興事業財団・横浜市体育協会
・事務主管：鶴見大学歯学部
・部門主管：日本大学松戸歯学部，日本大学歯学部，大阪歯科大学，九州大学歯学部，日本歯科大学歯学部，神奈川歯科大学，鶴見大学歯学部

昨年は朝日大学歯学部が事務主管で名古屋市を中心に開催され，成績は総合５位であった。今年は神奈川県を中心に展開され，学生諸君の健闘により，総合成績は昨年と同じ５位入賞であった。総合優勝は昨年に続き日本大学松戸歯学部であった。

開会式は８月１日に横浜市の横浜プリンスホテルで挙行された。なお，本学は19部門に出場し，延べ397名が参加した。

以下に，今回の部門別入賞順位を示し，出場選手諸君の健闘を讃えます。

部門成績

優　勝：アーチェリー部，弓道部，漕艇部
準優勝：なし
第３位：ラグビー・フットボール部，バレーボール部，ボウリング部
第４位：なし
第５位：準硬式野球部，柔道部，空手道部

平成 16 年度 科学研究費補助金交付

平成16年度（平成14年11月申請）は，新規申請134件に対し15件が採択され，継続採択16件とあわせて合計31件，総額62,900,000円が交付された。新規申請の採択率は11.2％であった。

新規申請の研究種目別の内訳は，基盤研究（B）が17件（採択1件），基盤研究（C）が61件（同8件），萌芽研究が32件（同1件），若手研究（B）が23件（同5件），特定領域研究が1件（同0件）であった。

本学の科学研究費補助金申請内容の推移および科学研究費補助金の研究種目は，別表の通りである。

本学の科学研究費補助金申請内容の推移

申請内容	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
新規申請	142件	146件	96件	102件	134件
新規採択	14件	18件	15件	14件	15件
継続採択	24件	19件	21件	16件	16件
採択合計	38件	37件	36件	30件	31件
助成総額	6,080万	5,900万	5,610万	5,910万	6,290万

科学研究費補助金研究種目

研究種目	目的・内容	期　間	助成額
基盤研究（S）	1人または共同で行う独創的・先駆的研究	5年	5千万～1億
基盤研究（A）		2～4年	2千万～5千万
基盤研究（B）		2～4年	5百万～2千万
基盤研究（C）		2～4年	5百万以下
萌芽研究	萌芽期の研究	1～3年	5百万以下
若手研究（A）	37歳以下で1人で行う研究	2～3年	5百万～3千万
若手研究（B）		2～3年	5百万以下
特別推進研究	国際的に優れた研究	3～5年	5億
特定領域研究	学術水準向上につながる領域の研究	3～6年	2千万～6億

平成16年度 科学研究費補助金採択者一覧

所　属	研究代表者	研究種目	研　究　課　題	助成額（円）
有歯補綴	楠本　哲次	基盤研究(B)(2)（継）	咀嚼における脳機能画像による賦活ネットワークの統合解析	2,200,000
薬　理	野崎　中成	基盤研究(B)(2)（継）	遺伝子操作によるodontoma自然発症モデルマウスの系統樹立と発症機構の解明	4,700,000
解　剖	諏訪　文彦	基盤研究(B)(2)（継）	咀嚼機能を営む連結人工歯根・天然歯外周の骨と血管構築に関する実験的研究	3,000,000
歯科理工	中村　正明	基盤研究(B)(2)（継）	可塑剤フリーの軟質裏装材の開発	3,800,000
口腔衛生	神原　正樹	基盤研究(B)(2)（継）	初期齲蝕早期検出に関する研究	6,100,000
歯科理工	大島　浩	基盤研究(B)(3)	金属アレルギーの歯科検査を目指した基盤的研究	7,100,000

所　属	研究代表者	研究種目	研　究　課　題	助成額(円)
口腔治療	好川　正孝	基盤研究(C)(2)(継)	歯髄細胞および骨髄細胞の象牙芽細胞への分化と象牙質再生	900,000
薬　理	大浦　清	基盤研究(C)(2)(継)	薬理LPS誘発性炎症反応におけるアデノシンおよびATPの機能的役割	1,700,000
歯科保存	白石　充	基盤研究(C)(2)(継)	漂白後のエナメル質表層の経時的色変化および薬剤処理による影響について	200,000
解　剖	池　宏海	基盤研究(C)(2)(継)	表面処理の異なるインプラント周囲の咬合機能下における骨および微細血管構築の相違	500,000
有歯補綴	川添　堯彬	基盤研究(C)(2)(継)	インプラントクラウン・ブリッジにおける咬合接触状態の評価基準の確立	900,000
歯科麻酔	百田　義弘	基盤研究(C)(2)(継)	過換気発作時の局所脳血流量研究変化に関する研究	600,000
薬　理	小崎　健一	基盤研究(C)(2)	エナメル上皮腫の新規実験モデル系の確立と術後再発の制御を目指した基礎的研究	2,100,000
生　化	池尾　隆	基盤研究(C)(2)	硬組織再生に及ぼすアディポサイトカインの効果	1,900,000
口腔治療	戸田　忠夫	基盤研究(C)(2)	多孔質セラミックス担体を用いた未分化間葉細胞分化による歯髄・象牙質複合体再生	2,500,000
欠損補綴	畦崎　泰男	基盤研究(C)(2)	実験的咬合障害が自律神経反応におよぼす影響	1,800,000
欠損補綴	前田　照太	基盤研究(C)(2)	大臼歯欠損(短縮歯列)が唾液中ストレスホルモンに及ぼす影響	2,400,000
欠損補綴	井上　宏	基盤研究(C)(2)	咬合障害を与えたラットの前頭皮質ドーパミン放出は精神的ストレスに起因する	2,500,000
口腔外科一	森田　章介	基盤研究(C)(2)	間葉系幹細胞と生体材料を用いた二次的血管柄付き移植骨による顎骨再建の実験的研究	2,000,000
内　科	宮前　雅見	基盤研究(C)(2)	歯科全身麻酔時の揮発性吸入麻酔薬による心筋保護作用の細胞内メカニズムの解明	1,800,000
薬　理	野崎　中成	萌芽研究（継）	成熟個体における骨の異所性分化誘導による骨再生に関する基礎的研究	1,300,000
歯科理工	中村　正明	萌芽研究	自己組織誘導能を有する新規吸収性足場材料の開発	1,000,000

所　　属	研究代表者	研究種目	研　究　課　題	助成額(円)
口腔病理	富永　和也	若手研究(B)(継)	アデノウイルスEla遺伝子を利用した口腔癌に対する新治療法開発	1,200,000
有歯補綴	佐藤　正樹	若手研究(B)(継)	三次元セファログラムの開発	500,000
歯科理工	橋本　典也	若手研究(B)(継)	生体活性処理したチタンへの破骨細胞の接着と骨改造（in vitro）	1,000,000
小児歯科	白數　慎也	若手研究(B)(継)	線維目細胞におけるLPSシグナルとアデノシンのクロストークの可能性	1,500,000
生　　理	井上　　博	若手研究(B)	NK細胞における細胞障害能を活性化するシグナルデンタル機構の解析	1,300,000
口腔衛生	川崎　弘二	若手研究(B)	エナメル質初期う蝕病巣の再石灰化に対する唾液タンパク質の影響	300,000
歯科保存	廣瀬　泰明	若手研究(B)	象牙質に対するフッ化物徐放性修復材料の影響	1,800,000
歯科理工	秋山　真理	若手研究(B)	牛骨膜細胞の再生能力を利用した新しい骨再生法のメカニズム解析	1,900,000
高齢歯科	川本　章代	若手研究(B)	骨新生を目的としたヒアルロン酸の骨芽細胞への応用	2,400,000
合計31件（内　継続16件）				62,900,000

平成16年度 学内学術研究助成金交付

平成16年度の学内における各学術研究助成金の交付が決定した。大阪歯科大学学術研究奨励助成金は，本学の教員(教授を除く)ならびに大学院の学生を対象として研究助成を行うもので，今年度は大学院生から25件，教員から26件の申請があり，審査委員会による審査の結果，大学院生６件，教員５件の計11件の助成金交付が決定された。助成金の総額は，10,000,000円である。また，学術研究奨励資金は１件の交付が認められ，8,300,000円が助成された。

大阪歯科大学共同研究助成は，共同研究に基づく学術研究成果の振興を目的としており，学長がその必要を認めた場合においてその実施を命じるものである。共同研究は同一研究課題のもと３年以上継続して研究を行い，研究成果は大阪歯科学会で発表するとともに論文として学術研究専門誌に公表しなければならない。今年度は新たに３件の申請が認められ，継続分の４件とあわせて７件，総額30,000,000円が助成された。

インプラントの研究を支援する口腔インプラント研究助成(玉置基金)は継続２件，新規３件の５件が採択された。交付額は，2,300,000円である。各学内学術研究助成金の詳細は，別表の通りである。

平成16年度 大阪歯科大学学術研究奨励助成金一覧

所　　属	氏　　名	研　究　課　題	助成額(円)
歯科保存 大学院３年	諏訪沙耶佳	各種修復材料の条件が細胞接着に及ぼす影響	767,000
歯内治療 大学院４年	上田　佳世	骨芽細胞様細胞の性状に関する分子生物学的研究	948,000
高齢歯科 大学院４年	大橋　芳夫	レーザーアブレーション法を用いたハイドロキシアパタイト薄膜の膜厚が生体に及ぼす影響	950,000
有歯補綴 大学院３年	鷹尾　智典	グラスファイバーフレームを応用したブリッジの適合性向上に関する研究	912,000
口腔外科二 大学院４年	田村　浩伸	ETSファミリー遺伝子発現ベクター導入による口腔扁平上皮癌細胞の浸潤能について	836,000
歯科麻酔 大学院４年	山下　智章	神経因性疼痛におけるフリーラジカルの関与およびフリーラジカルスカベンジャーの効果	883,000
解　　剖 講　師	戸田　伊紀	抜歯窩即時植立インプラントの動揺度と周囲骨変化に関する実験的研究	960,000
口腔解剖 助　手	中塚美智子	上顎歯列弓形態の分類と各形態間での咬合状態の比較検討	864,000
薬　　理 講　師	野崎　中成	細胞誘導用バイオマテリアルを用いた幼若歯髄細胞の多分化能に関する基礎的研究	960,000
歯科理工 助　手	秋山　真理	牛骨膜細胞の再生能力を利用した新しい骨再生法のメカニズム解析	960,000
生　　物 助　手	岡村　英幸	共生説に基づく細菌ゲノムからのミトコンドリア・アポトーシス起源と進化過程の探索	960,000
合計11件			10,000,000

平成16年度 学術研究奨励資金一覧

所　　属	研究代表者	研　究　課　題	交付額(円)
内　　科	堂前　尚親	辺縁性歯周炎の発症・進展機序の解明 －全身疾患の誘因や合併症としての観点から－	8,300,000
合計１件			8,300,000

平成16年度 大阪歯科大学共同研究助成一覧

所　　属	研究代表者	研　究　課　題	助成額(円)
内　　科	堂前　尚親	生活習慣病に対する歯科と医科の有機的連携の確立（継続）	2,500,000
口腔衛生	神原　正樹	歯科疾患予防に関する研究 －初期齲蝕早期検出法について－（継続）	2,500,000
細　　菌	福島　久典	DNAアレイを用いた歯周病重症度診断基準の確立とその応用（継続）	2,500,000
生　　化	池尾　　隆	歯科医療における再生医療の可能性（継続）	9,000,000
歯科麻酔	小谷順一郎	咀嚼障害における高次脳機能のシステム的解明（新規）	4,520,000
口腔外科一	森田　章介	口腔前癌病変の癌化機序に関する分子病理学的研究（新規）	4,860,000
高齢歯科	小正　　裕	発声を要する運動時のマウスガード装着による外傷防護（新規）	4,120,000
合計７件			30,000,000

平成16年度 口腔インプラント研究助成(玉置基金)一覧

所　　属	研究代表者	研　究　課　題	助成額(円)
有歯補綴	田中　順子	インプラント補綴装置装着者の口腔内環境に関する臨床研究（継続）	410,000
口腔外科二	覚道　健治	PRP(多血小板血漿)を用いたインプラント治療に関する研究（継続）	600,000
解　　剖	諏訪　文彦	天然歯型の歯科インプラントに関する実験的研究（新規）	490,000
歯科麻酔	杉岡　伸悟	口腔インプラント手術時の鎮静法の影響について（新規）	400,000
インプラント	江藤　隆徳	インプラント安定性に関する客観的評価法についての研究（新規）	400,000
合計５件			2,300,000

平成 16 年度 備品調査

平成16年度の備品調査は，８月27日楠葉学舎，牧野学舎，歯科技工士専門学校，８月30日天満橋附属病院，歯科衛生士専門学校において法人役員，公認会計士立会いのもと，今年度調査対象備品である752点について調査を行いました。

平成16年度備品調査・調査部署および点数

調査部署	点　数
講座・教室	356 点
中央歯学研究所	47 点
大学事務	90 点
牧野学舎	3 点
附属病院	234 点
歯科技工士専門学校	9 点
歯科衛生士専門学校	13 点
合　　計	752 点

調査に先立ち，機器備品一覧表を各部署に配布し，常置場所の確認，備品シールの貼付け状況，廃棄備品の有無等について確認していただきましたので，調査はスムーズに実施できました。備品シールの貼っていない物，不鮮明な物，備品貸出中の物，常置場所が楠葉学舎であるのに天満橋に置いてある物などが少々ありましたが，全体的にはよく管理されており，各部署の立会人の協力を得て，スムーズに調査を終えることができました。

今後の課題としては，全学に備品調査についての認識をさらに高めていただくために，日程等の実施要綱を確実に連絡すること，また機器備品は金額の大小にかかわらず大学の資産であることを現場に認識してもらい，意識向上に努めることが大切であると考えています。調査結果をもとに財産の維持管理に努めていただきたいと思います。

調査に際しては，各部署の立会人ならびに調査にたずさわっていただきました調査員の方々に，お礼申し上げます。

平成 16 年度 地方父兄会開催

毎年，夏季休暇中に地方父兄会を開催している。本年度は和歌山地区を対象に実施することとなり，平成16年８月29日(日)に和歌山市にある「和歌山県歯科医師会館」において開催された。

当日は，父兄会より大野　榮幹事長，片尾秀信副幹事長が出席され，大学からは，古跡養之眞学長，川本達雄教務部長，新池　孜学生部長，諏訪文彦第１学年指導教授，池尾　隆学生部委員が出席した。午後２時に総会が開催され，大野父兄会幹事長挨拶，古跡学長挨拶に続き新池学生部長が学内報告の後，アンケート集計結果を報告された。

なお，今回は和歌山県父兄会世話人の要望により，川本達雄教務部長からCBT，OSCEならびに国家試験対策について解説がなされた。

引き続き，各学年に分かれて学年指導教授と父兄がご子弟の就学状況等について熱心に懇談された。

なお，当日の父兄参加者は16名であった。

地方父兄会で報告する新池学生部長

シドニー大学歯学部訪問研修同行記

学生の国際交流に関する小委員会委員
口腔病理学講座助教授　西川哲成

まさか，研修中止の依頼が・・・

8月4日(水)の午後，佐川理事長のメッセージを携え，関西国際空港を出発した。シドニー大学歯学部の学生訪問研修の引率である。過去2回ほど引率の経験があったが，今回は少し気が重かった。5月の研修の計画時点で，生理学講座の内橋助手と口腔外科学第1講座の木下助手のお二人に引率をお願いしていた。ところが，6月の訪問研修の学生募集が終わるころ，シドニー大学から突然，研修中止の依頼があった。今年はシドニー大学歯学部のカリキュラム変更で，卒業生が通年の2倍の人数，加えて前回までお世話いただいたThomas教授が定年で退官され，その引き継ぎが十分行われていないとの理由による。しかし，すでに定員を超える学生からの応募があり，少しあわてた。ここは，英語科の藤田講師の献身的な交渉で，何とか実施のめどがつき，私も急遽，引率に加わることになった。学生がシドニー大学へ着く前に今回のスケジュールについて打ち合わせする必要が生じたからである。

旧知の先生方の尽力で何とか・・・

5日(木)の朝，シドニー空港に着き，Westmead病院の口腔病理学のWalker教授を訪問した。「ハイ，テツナリ元気？」5年ぶりの再会であるが，前の「See you.」が昨日のように思えた。シドニーとの時差は1時間。気候は春。大学での英語はオーストラリア訛りが少ない。歯学部は市内の“Sydney Dental Hospital(SDH)”と電車で1時間ほど西の郊外にある“Westmead Centre for Oral Health”の2ケ所に分かれている。翌日，今回からお世話いただくShalinie先生と研修に関する打ち合わせを行った。彼女は初めての経験で，受け入れ準備はほとんど進んでいなかった。幸い，Klineberg歯学部部長のアドバイスで，私がスケジュールを立てることになった。そして，Thomas教授の退官パーティー，日曜日のWalker教授宅のパーティーに参加して，何とか3人の講師に今回の訪問研修のための特別講義を依頼することができた。

いよいよ研修スタート

9日(月)，Klineberg歯学部部長の歓迎セレモニーに引き続き，“Problem Based Learning(PBL)”に参加した。突然の英語の嵐で，学生たちは笑顔で対応する

シドニー大学(The University of Sydney)

オーストラリアには40ほどの総合大学があり，私立大学2校を除きすべて州立大学である。修学年数は一般的には3年で，専門分野により教育・工学・法学が4年，歯科・獣医・建築が5年，医学が6年である。また，日本の一般教養課程のような授業はなく，入学と同時にそれぞれの専攻分野の専門教育が行われる。

シドニー大学は，1850年に設立されたオーストラリアでは最も古い大学で，医科系5学部，人文・社会科学系7学部，自然科学・工学系6学部の計18の学部・大学院からなり，オーストラリアの教育・研究の中心的役割を果たす大学のひとつであり，現在34,000人の学生が学んでいる。大学は10のキャンパスに分かれており，歯学部はメインキャンパスから北東に数キロ離れたサリーヒルズにキャンパスがある。

シドニー大学歯学部は，オーストラリアの大学の歯学部では最も伝統があり，1901年に開設されている。初代リーディング教授のもと1904年には4年制の教育体制を整え，その後5年制に移行している。しかし，2001年に教育プログラムの変更を行い，修学年数は5年制から学士入学者を対象とする4年制に変更されている。現在は，教育システムの移行期であり，完全に4年制になる2005年には，オーラルヘルス学科が新設される。歯学部の学生数は340人と比較的少ない。研究は，医学部や工学部との共同研究プロジェクトが活発に実施されており，臨床的には2つの教育病院“Sydney Dental Hospital”(写真左)と“Westmead Centre for Oral Health”(同右)を併設している。

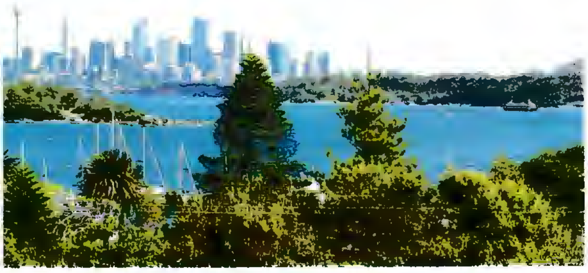
しかなかった。PBLとは，チューターによってある患者に関する資料が事前に配布され，それに基づいて８人の学生は自由に討論し，症状に対する検査項目・診断・治療法そして患者への説明などをボードにまとめる授業である。各学年とも年間を通して週２回のPBLが行われている。翌日いよいよシドニー大学の学生の一般講義への聴講，特別講義，PBLそして臨床見学など本格的な研修がスタートした。その間，３人のスタッフは分担しながら，講義や臨床見学をしていただく講師と事前の交渉を，またシドニー大学の学生とは交換学生パーティーについての打ち合わせを行なわなければならなかった。シドニー大学の学生の一般講義は８時と早い。６時半ホテルを出発したため，講義中睡魔に襲われた学生を起こすこともしばしば。驚いたことに，講義室の外には朝食用のサンドウィッチとコーヒーが置いてあり，学生はそれを口にしながら講義を受けていた。予想通り質問に対する学生の返答も活発であった。印象的だったのは「先天異常・症候群」に関する講義。Cameron助教授はまず言った。「イメージして下さい。この患者は病院で何百回となく痛い目にあわされています。何よりも大切なのは皆さんの笑顔と挨拶」と。特別講義は大阪歯科大学の学生を対象にした講義で，スタッフが日本語に通訳した。そのためか，学生からの積極的な質問が多く，特に「オーストラリアにおける水道水へのフッ素投与」ではスケジュールに支障がでるほどであった。午前は講義，そして午後は臨床見学が中心で，口腔外科，歯科保存，緊急外来そして歯科矯正と回った。シドニー大学では学生は１年生から患者の治療を始め，４年生で卒業を迎える時は一般歯科に関しての治療ができるように大学病院で指導されている。

Problem Based Learning(PBL)の授業風景

エバンス教授を質問攻めに

キャプテン・コック？

一方，学生が海外で自立生活できるようにと，食器や食材をスーパーで購入し，ホテルの旅行者用の台所で自ら料理し，屋上でささやかな夕食会を開いた。正直言って内橋先生の料理の腕はプロ級，250年前シドニーに上陸したキャプテン・クックにちなんでキャプテン・コックの異名を持つ。そして，13日の金曜日，シドニー大学の学生，教員と共に40名以上が参加して，シドニー大学歯学部学生との交流会が行われた。このころになると学生も英語に慣れて，驚くほど積極的にパーティーに参加していた。14日と15日の週末はシドニー郊外，特に一般の観光旅行では訪れることのない穴場を中心に，ボンダイとブロンテのビーチ，ワトソンベイ，そしてブルーマウンテンの秘境と，シドニーの都会に隣接する大自然の美しさに驚嘆した。17日午前のSDHの臨床見学をもって今回の研修は終了し，午後はWestmeadへ行き，本年度研修のお礼と来年度の講義や臨床見学について依頼した。



シドニーに隣接する「ワトソンベイ」

最高のスタッフと学生の笑顔に “Thank you.”

18日夜，折からの台風を尻目に無事，関西空港に着き，新池教授の挨拶の後，解散した。ここを出発した時の気の重さは，学生の笑顔を見るたび安堵感へと変

わり，帰路につく電車の中はもう日本の日常であった。今回，教育に関して感じたことは，学生の患者の治療を中心とした臨床実習，チュートリアル方式のPBL，そして英語圏の国々で着々と進められている歯科教育の基準化である。

第9回シドニー大学歯学部訪問研修日程

期　間：平成16年8月5日(木)～8月18日(水)
参　加：12名(3年生4名・4年生8名・男女各6名)

8/5(木)	3年生・4年生計8名(引率・内橋)関西空港発
8/6(金)	8名シドニー空港到着
8/9(月)	Sydney Dental Hospitalにて研修
	Problem Based Learning(PBL)に参加 メインキャンパス見学 4年生4名(引率・木下)関西空港発
8/10(火)	Sydney Dental Hospitalにて研修
	Problem Based Learning(PBL)に参加 4名シドニー空港到着
8/11(水)	Westmead病院にて研修
	一般講義「混合歯列期における不正咬合の予防，診断と治療」 Darendeliler教授 特別講義「創傷治癒過程における血管内皮細胞のアポトーシス」 Zoellner講師 臨床見学：口腔外科
8/12(木)	Westmead病院にて研修
	一般講義「口腔の感染症～その病理と診断」 Chan講師 特別講義「歯科医師による口腔癌のスクリーニングの方法と必要性」 Walker教授 臨床見学：歯科保存
8/13(金)	Sydney Dental Hospitalにて研修
	Problem Based Learning(PBL)に参加 シドニー大学歯学部学生と交流会
8/16(月)	Westmead病院にて研修
	一般講義「先天異常・症候群を伴う患者の治療」 Cameron助教授 特別講義「オーストラリアにおける水道水へのフッ素投与～その効果と問題点」 Evans教授 シドニー郊外観光
8/17(火)	Sydney Dental Hospitalにて研修
	臨床見学：緊急外来・歯科矯正
8/18(水)	シドニー空港発～関西空港着・解散

今回，訪問研修の推進に特別な御配慮をいただきました佐川理事長と古跡前学長，有意義な研修にアドバイスいただきました学生部の先生方，そして期間中安全な滞在を企画していただきました職員の皆様に感謝申し上げます。なお，古跡前学長から御質問のありました「南半球における渦の方向」は，観察者によって異なっており，結論は次年度以降に持ち越されることとなりました。

人　事

任期満了退任

学長　古跡養之眞
H. 16. 8. 31付

昇　任

歯科放射線学講座　教授　清水谷公成
H. 16. 7. 1付

教員採用

歯科矯正学講座　助手　西浦　亜紀
H. 16. 6. 1付

歯科矯正学講座　助手　本田　領
歯科矯正学講座　助手　蓮舎　寛樹
以上 H. 16. 7. 1付

死亡退職

歯周病学講座　助手　野口　吉廣
H. 16. 8. 25付

大学院教員

任　用

大学院講師　隈部　俊二，好川　正孝
小崎　健一，高橋　一朗
大学院助手　池　宏海，橋本　典也
合田　征司，吉川　一志
魚部　健市，加藤　裕彦
以上 H. 16. 6. 1付

講師(非常勤)解任

歯科矯正学講座　講師(非常勤)　西浦　亜紀
H. 16. 5. 31付

歯科矯正学講座　講師(非常勤)　本田　領
歯科矯正学講座　講師(非常勤)　蓮舎　寛樹
以上 H. 16. 6. 30付

委　嘱

共用試験歯学ＯＳＣＥ委員会委員長
小谷順一郎

共用試験歯学ＯＳＣＥ委員会委員
玉田　善堂，田中　昌博
中塚美智子，木村　公一
井上　博，前田　照太
合田　征司，内田　愼爾
西川　哲成，虫本　浩三
山根　一芳，井関　富雄

野﨑　中成，中嶋　正博
武田　昭二，角熊　雅彦
三宅　達郎，高橋　一朗
山本　一世，橋本　登
廣瀬　泰明，古跡　孝和
馬場　忠彦，川崎　靖典
西川　郁夫，人見さよ子
民上　良徳，本山　正治
高津　兆雄，百田　義弘
伊﨑　克弥，米谷　裕之
髙橋　一也，辻　一起子
以上 H.16.6.1付

雑　報

住所変更

濱本　由佳　附属病院　歯科衛生士
〒571-0030 門真市末広町31-12-410
TEL　06-6908-3101

池田　英子　教務学生課
〒596-0825 岸和田市土生町1118-5
TEL　0724-28-6640

木下　浩志　歯科技工士専門学校
〒542-0012 大阪市中央区谷町6-1-19-504
TEL　06-6764-6554

～ご結婚おめでとうございます～

口腔外科学第二講座　濱本　和彦
附属病院　歯科衛生士　濱本　由佳　（旧姓　松本）
小児歯科学講座　中野　智子　（旧姓　萩原）

～お誕生おめでとうございます～

欠損歯列補綴咬合学講座　呉本　晃一　遥華（はるか）さん
歯科理工学講座　橋本　典也　典磨（てんま）さん

～お悔やみ申し上げます～

臨床研修教育科　福住　峯行　ご母堂様逝去
病院庶務課　矢田　孝　ご母堂様逝去
口腔解剖学講座　隈部　俊二　ご尊父様逝去
口腔インプラント科　江藤　隆徳　ご尊父様逝去
歯科衛生士専門学校　田中　照代　ご母堂様逝去

あとがき

－余談－

記録的な猛暑が日本中を覆うなか，４年に１度のオリンピックがアテネで開催され，日本人の活躍に熱狂したのも束の間，イラク・ロシアを始め世界情勢は依然として不安定なまま推移している。この世界的なアノミーの状態を回復すべく人類は新しい秩序を生み出すことができるのだろうか。誰も解答を見出せないまま，時間だけが経過して行く。悪循環の連鎖を断ち切る，秩序の理念が必要とされている。

さて，９月より新しい学長が誕生しました。今井新学長は『開かれた学長』を標榜されており，教職員との対話をその基本におかれています。本学の使命「社会に役立つ歯科医師を育成する」ために，教職員がそれぞれの立場から学長に，意見・提案を寄せられてはどうか。本学の創立者，藤原市太郎は学校継承時の６条件の最後に「広く有材の学者を招き学閥に傾くことのなきようにすること」と記している。開かれた学長として，学閥(派閥)にとらわれることなく，広く意見を聞かれ，先の使命・理念に基づき大学を前進させていくことが期待されている。

トピックスでは，口腔病理学の西川先生にシドニー大学歯学部訪問研修の様子を同行記としてまとめていただきました。シドニー大学の事情により，日程の調整に追われながらも，研修の様子や教育内容，学生との心温まる自炊生活などが軽妙な筆致で紹介されています。同時に，学生の海外研修を支える関係者の尽力には頭が下がります。是非ご一読を。

大阪歯科大学広報　第135号
発 行 日　平成16年9月30日
編集発行　広報委員会
〒573-1121　枚方市楠葉花園町 8-1
電話　072-864-3111